

17日 土曜

マルコ

14:66 ペテロが下の中庭にいと、大祭司の召使いの女の一人がやって来た。

14:67 ペテロが火に当たっているのを見かけると、彼をじっと見つめて言った。「あなたも、ナザレ人イエスと一緒にいましたね。」

14:68 ペテロはそれを否定して、「何を言っているのか分からない。理解できない」と言って、前庭の方に出て行った。すると鶏が鳴いた。

14:69 召使いの女はペテロを見て、そばに立っていた人たちに再び言い始めた。「この人はあの人たちの仲間です。」

14:70 すると、ペテロは再び否定した。しばらくすると、そばに立っていた人たちが、またペテロに言った。「確かに、あなたはあの人たちの仲間だ。ガリラヤ人だから。」

14:71 するとペテロは、?ならのろわれてもよいと誓い始め、「私は、あなたがたが話しているその人を知らない」と言った。

14:72 するとすぐに、鶏がもう一度鳴いた。ペテロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と、イエスが自分に話されたことを思い出した。そして彼は泣き崩れた。

ペテロはイエス様を裏切りました。特に少し前に、自分は絶対に裏切るようなことはないと言明していただけに、その行為が目立つことになりました。彼は自分の信仰を過信していたのです。誰もが自分は信仰を持ち続ける、あの人のような罪を犯すことはない、あれくらいの奉仕なら自分ならやり遂げられるなどと思ってしまうものですが、状況とういものは変わるものです。

誰もが自分は弱い存在であること、今の状態は続かないかもしれないということを知り、謙遜であり



ましょう。そして謙遜ゆえに主の力に依り頼んで行きましょう。

イエス様は彼の裏切りをあらかじめ知っておられ、それを彼に伝え、彼が「イエスが自分に話されたことを思い出」すようにされましたが、それは彼をとがめるためではありませんでした。「立ち直ったら」と彼のその後希望と期待を与えたのです。

私たちは誰もが失敗するのもです。それをなかつたかのように振舞うのではなく、またどうしようもなかつたのだと開き直るのでもなく、さらには他の人も同じだと弁解するのでもなく、ただ主の赦しと回復をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

